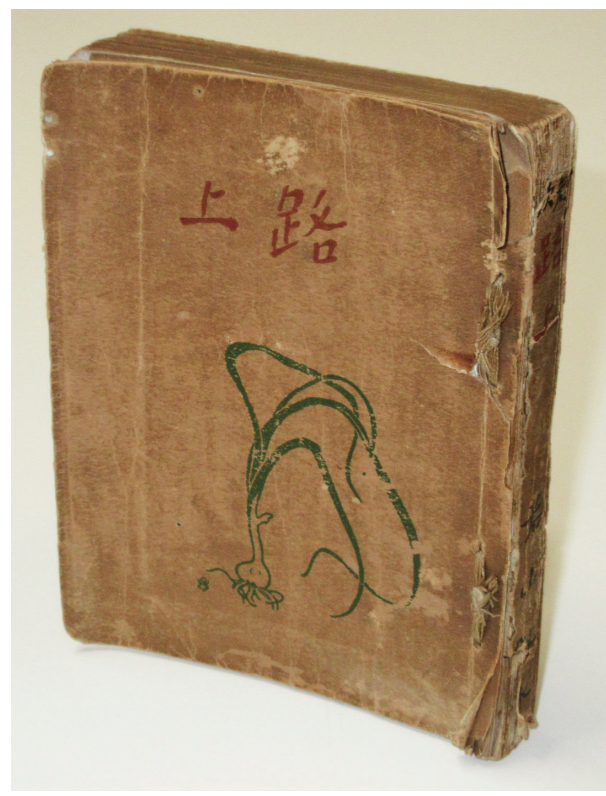


# 収蔵資料から

其の90 第4歌集『路上』



発行日：明治44年9月12日  
発行所：博信堂書房  
収録歌数：483首

『路上』は明治43年5月から1年あまりの歌が収められています。

海底に眼のなき魚の棲むといふ  
眼の無き魚の恋しかりけり

という巻頭の一首に代表されるような、静かな哀愁に満ちた歌集です。

明治43年5月というと、牧水は第3歌集『別離』によって人気歌人となり、また雑誌「創作」の編集者として充実した日々を過ごしていました。しかし、一方で恋人との恋愛問題に苦悩していた時期でもあります。

ある日、牧水は友人の画家を訪ね千葉県に出かけます。土手で眠った牧水を画家の友人が写生し、後に油絵に仕上げられます。その絵は歌集の口絵として添えられました。



# 牧水歌碑めぐり

其の91 県立横須賀大津高等学校 (神奈川県)

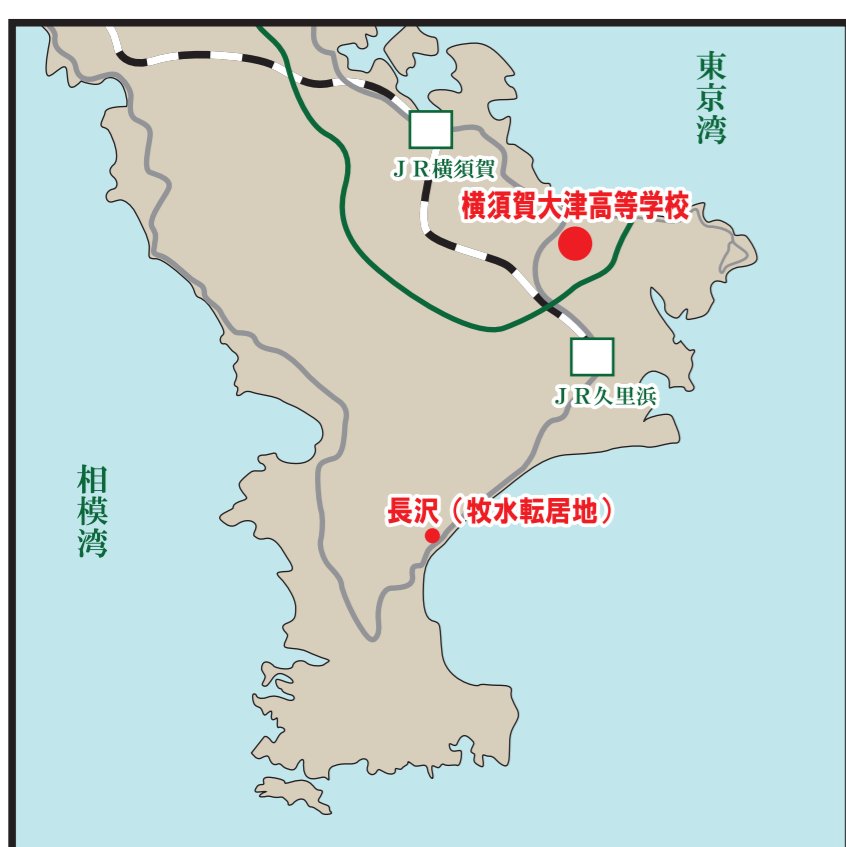


昭和61年建立

紫陽花の花をぞおもふ  
藍ふくむ濃き  
わらさきの  
花のこひしさ  
牧水

この歌は昭和に詠まれ、第15歌集『黒松』では「曇を憎む」と題する14首が並びます。この頃の牧水は健康が優れず、鬱々とした歌が多い中、安寧を願うかのように紫陽花の花を待ち望む歌を詠んでいます。

横須賀大津高等学校では、創立八十周年を記念して、あじさい園とこの歌の歌碑を建設しました。書は当時の教頭先生によるものです。学校のある三浦半島は、喜志子の病氣療養のため大正4年から2年間、転居していた所です。(荒砂)



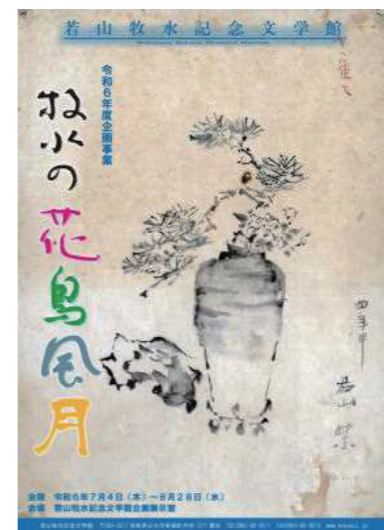
# 文学館だより

令和6年 7月1日  
若山牧水記念文学館  
TEL 0982-68-9511  
文責 日高第99号

## 企画展「牧水の花鳥風月」が始まります

牧水没後90年記念事業として開催した「牧水の花」展、「牧水の鳥」展、「牧水の風」展、「牧水の月」展を再編成し、今回は「牧水の花鳥風月」展を一挙公開いたします。牧水が詠んだ自然の風景をご堪能ください。

会期 令和6年7月4日(木)～8月28日(水)



文学館にて取り扱っています

### 夏の鳥 随筆『海より山より』

山深く、若しくは溪の奥深くわけ入ろうというのなら別、東京あたりの郊外にぶらりと杖をひいて聞き得る鳥のなかでは私は頬白鳥(ほおじろ)が好きである。樹木ならば榎(くぬぎ)か樺(かば)の落葉樹、しかもそのおち葉に似た親しみをこの鳥は持っている。漸く色づきかけた麦の畑中の径をぶらぶらと歩いていると、不意に頭の上の桜の梢などから、

一筆啓上つかまつりそる

と啼くというこの鳥の寂(さび)深い声が落ちて来る。驚いて見上げると微風にそよいで光っている葉がくれにやはり落葉色をしたこの小鳥が静かにとまっているのである。佇んで耳をすましていると、今度は向うの岡の何やらの木の上でも同じのが啼いている。あちらがやめれば、こちらのがまた啼き初める。

遠く続いた麦のいろにも、ほかほかする地のほめきにも、光り輝いている岡の上の雲のむれにも、歩き疲れて何やら浮世なつかしくなっているわれ等のその時の心にも、すべてによく調和して、しみじみと耳が傾けらるる。

月並のようなが、私は杜鵑(ほととぎす)も好きである。私はこの鳥を聴いているとずっと昔の太古の世界をふらふらと思ひ浮べる事が多い。たった独り、この世に生れ落ちていような寂しさを感じる事が多い。

夜はいやだ、真昼の雲が四方の空に輝いている時に聴くのが好きだ。溪間でもよい、原の中でもよい。鼻も好き。

ゆうぐれ、または東明(しのめ)の寝ざめなどに思わず聞きつけて、心を澄ますことが多い。

ひとつひとつ足の歩みの重き日の車月(さつき)の原にほほじろの啼くわが死に後(のち)の静けさかかる日に斯くほほじろの啼き続くらむほととぎす聴きつつ立てばひと滴(たま)のつゆよりさびしわが生くが見ゆわがいのち空に満ちゆき傾きぬあなかなすかなり遠ほととぎす真昼野や風のなかななるほかなる遠き杜鵑(とけん)のこゑきこえ来る暈(かさ)帯びて日は空にあり山々に風青暗しほととぎす啼く朝雲ぞ煙には似るこの朝けあわただしくも啼くほととぎすなきそめしひとつにつれてをちこちの山の月夜に鼻の啼くたそがれのわが眼のまへになつかしく木の葉そよげり鼻のなく耳すませばまこと鼻にありにけりさびしき鳥をさけるものかな



## 伊藤一彦短歌実作講座 令和6年度スタートしました

伊藤一彦短歌実作講座(日向若山牧水顕彰会主催)。新しい講座生8名を迎え、32名でスタートしました。伊藤先生の講話の後、実作講座へと進みました。

### 実作講座のながれ

- (1) 事前にひとり1首提出し、全員の歌を鑑賞しておく。
- (2) 当日、1番の歌から順に鑑賞していく。この時点では作者はわからない。
  - ・1番目の人が1番目の歌を読み、感じた思いなどを発表する。
  - ・質問・意見があれば自由に発表し、相互理解を深める。
  - ・最後に、伊藤先生から講評を受ける。
- (3) すべての歌の鑑賞が終わった時点で作者を知る。
  - ・自分が作った歌の背景、心情などを発表する。



今回は、「こうするともっとよくなる」という視点での講評がありました。

### 病みてより食の進まぬつれあいに理詰めで攻める蛋白ビタミン

- 「理詰めで攻める」がユーモラスである
- ▽結句は体言止めでない方がよい →蛋白ビタミンを or 蛋白ビタミンともししくは、「蛋白ビタミンを理詰めで攻める」としたらどうだろうか

### 夫なき後よくも一人で暮せたとほめてやりたいあと十年も

- ▽字余りであっても、「夫なき後(のち)」、「夫なき後(あと)」の方がよい
- 大和言葉の方が意味がわかる

### ◎添削がなかった作品

ウクライナ・ガザの映像切替えて音量落し見る「翔タイム」シャワーすみ鏡に向かう我が顔に母の顔あり祖母の顔あり「おいしいよ」孫が言ふから買ひにけり二個で百円きびだんごなりマネキンの並ぶ姿のスーツの子ら社会人へのきざはし昇る

今回、初参加された講座生のおひとりが、講座の2日後、早速、文学館を訪ねてくださいました。「初めて来たわ。知らなかった。あなたはこんな所で働けて幸せね。」と言っていました(^^)

## 「三世代のいちごつみ」 ついに「牧水」登場！

4月号で紹介した「三世代のいちごつみ 短歌でつなぐ365日」。ついに・・・？ 早くも・・・？「牧水」が登場しました!!

- 5/14 No.135【長】成長の姿たのもし宮崎の短歌ネイティブ、牧水を追う 乃上あつこ
- 5/15 No.136【牧水】牧水が産まれ直して呑みにくるほどのうまさよ鍋島の味 久永草太

「いちごつみ」は短歌をリレーしていく遊びのひとつです。前の人詠んだ歌から好きな一語(いちご)を摘んできて、その一語を詠み込んで歌を作る、そしてまた次の人へ、と短歌を詠みつないでいきます。相手の語彙の畑から一語を取獲できるので、普段自分があまり使わないような言葉と出会えることが「いちごつみ」の面白さです。(三世代のいちごつみサイトより)

## 牧水先生の一首 折に触れて出会う一首を紹介しています

きゆうとつまめばびいとなくひな人形、きゆうとつまみてびいとなかする

「納戸の隅に折から一挺の大鎌あり、汝が意志をまぐるなどいふが如くに」(先月号)同様、第6歌集『みなかみ』に収録されている歌です。この頃の歌は三十一文字の定型を破り、読点(、)を用いたものが多く見られるのが特徴です。

傲慢なる河瀬の音よ、呼吸はげしき灯のまへのわれよ、血のごとき薔薇よ

きゆうとつまめば  
びいとなくひな人形、  
きゆうとつまみて  
びいとなかする

牧水

## 第1展示室「牧水遺墨展示」

旅の歌を展示

会期 7月4日(木)～8月28日(水)

文学館が収蔵する牧水遺墨から「旅」の遺墨6点を展示します。

< 展示遺墨から >



明治40年夏に詠まれた牧水を代表する旅の歌です。「幾山河」ではなく「幾山川」と書かれた大変珍しい一枚です。

## 第14回青の國若山牧水短歌大会

応募締切 7月31日です

### 【募集部門】

<一般の部>  
自由題、題詠「問」(問題、問い合わせ)

- ※それぞれ一人1首応募できます。(いずれか1首でもかまいません。)
- ※題詠は必ず「問」を入れてください。

<小・中・高校生の部>  
県内の児童生徒が一人1首応募できます。

### 【応募方法】

※専用の応募用紙があります。  
<葉書・封書で郵送する場合> ※当日消印有効  
作品(自由題、題詠の別を明記)、住所、氏名(ふりがな)、電話番号を記入して郵送してください。

<メールの場合>  
郵送と同じ内容を次のアドレスへ送信してください。  
aonokuni.tanka@gmail.com

※小・中・高校生の部は学校でまとめ、できるだけメールで応募してください。

まもなく応募締切です。(荒砂)

## 若山牧水記念文学館

〒888-0211 宮崎県日向市東郷町坪谷1271番地



■利用案内■  
【開館時間】9:00～17:00(入館は16:30まで)  
【休館日】月曜日(祝日は除く) 年末年始(12月29日～1月3日)  
【入館料】小・中学生/100円 高校生以上/310円(20名以上の団体は2割引)  
【お問合せ】TEL 0982-68-9511 FAX 0982-68-9512【公式HP】https://www.bokusui.jp